

2033年の 彦根市について

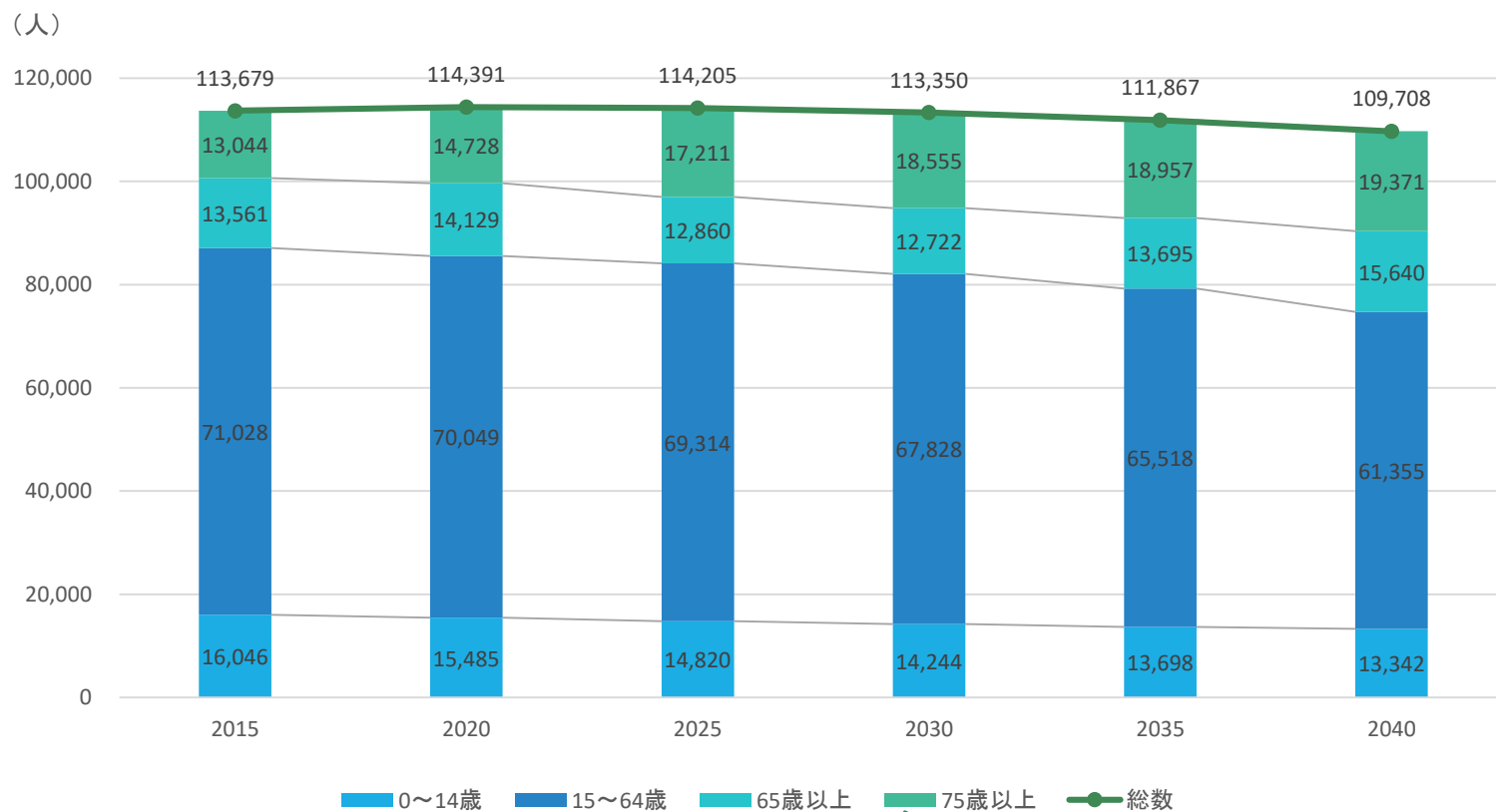
令和2年(2020年)11月26日開催
彦根市総合計画審議会資料

2033年に向けた動き（抜粋）

| | | |
|-------------|------------|---------------------------------|
| 2021年(R3年) | 彦根 | 彦根市役所本庁舎耐震改修工事が完了し、新庁舎での業務が始まる |
| 2022年(R4年) | 彦根 | (仮称)彦根市新市民体育センターが完成する |
| 2024年(R6年) | 彦根 | 彦根城が世界遺産に登録される |
| 2025年(R7年) | 彦根 | 国民スポーツ大会・全国障害者スポーツ大会が開催される(主会場) |
| | 大阪 | 大阪・関西万博が開催される |
| | 全国 | 国・地方の行政のデジタル化が完了する |
| 2027年(R9年) | 名古屋 | リニア中央新幹線(品川ー名古屋:40分)が開業する |
| 2029年(R11年) | 彦根 | 新ごみ処理施設が稼働する |
| | | |
| 不明 | 全世界 | 新型コロナウイルス感染症が終息する |

人口推計

(第2期彦根市まち・ひと・しごと創生総合戦略人口ビジョン ※社人研推計準拠)

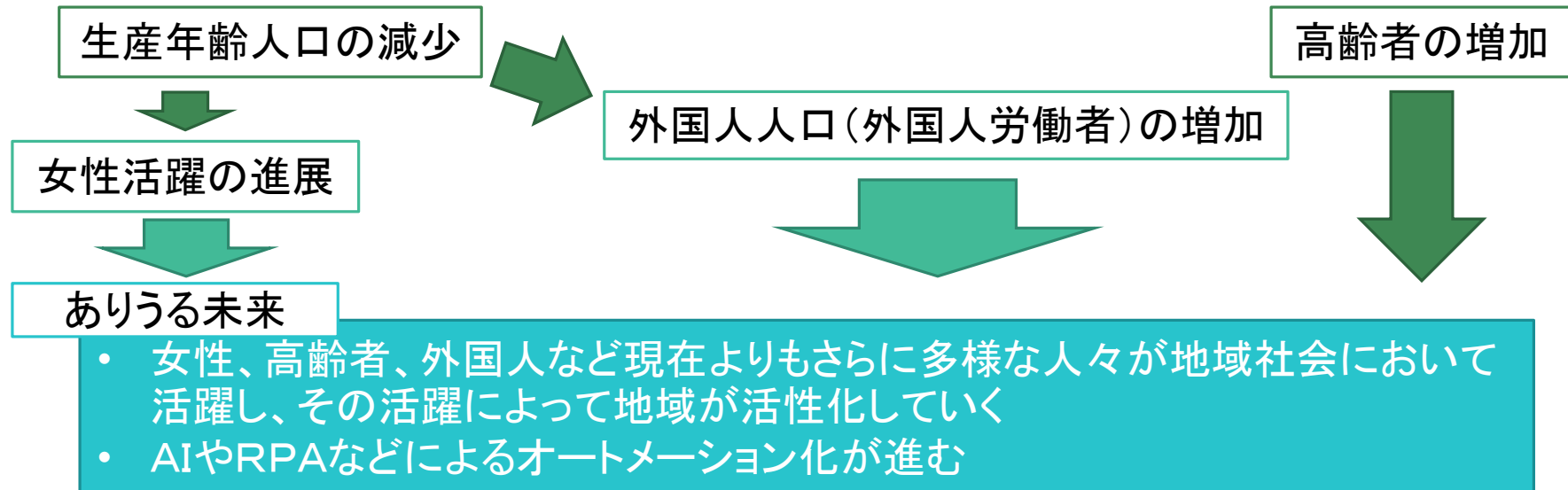


介護等の必要性
が高くなる世代

バックキャスト事務局試案

- 次ページ以降は彦根市版未来年表(別添)や本市の各種計画をもとに、2033年の「ありうる未来」を想定し、事務局で試案を作成したものです
- 作成に当たっては、資料④の2ページの「政策の方向性(案)」の柱建てに沿って分野ごとに**トピック**を整理しています
- この資料をもとに委員からご意見をいただき、フォーキャストでの検討結果と合わせて、次期基本構想素案を作成する予定です
- バックキャストでの検討については政策を網羅的に行うのではなく、特に重点すべき事項の検討に用いることとしたいと考えております**
- 事務局試案以外のトピックについても、何かご提案があればご意見をいただけると幸いです

誰もがその人らしく生き生きと暮らすまち



ありうる未来を実現するために

- 女性が活躍しやすい環境と、男性が育児に参加しやすい環境を整える
- 高齢者の健康づくりを推進し、健康寿命を延ばす
- 元気な高齢者が生きがいを持って社会参画できる環境を整える
- 障害のある人が活躍できる環境を整える
- 誰もが生涯にわたって学び続けることができる環境を整える
- 新たな外国人市民と従来からの市民(外国人を含む)の相互理解を促進する
- 業務のオートメーション化を進め、仕事の専門性を高める etc

子どもが健やかに育ち、 若者が躍動するまち

子育て環境の充実



ありうる未来

市外出身の若者の市内大学への
入学を契機とした市内への流入



地域と学校との
つながりの強化



- 若者が地域を学びの場として活用し、そのことによって地域が活性化していく
- 市内外出身の若者が、地域に魅力を感じ、居着き、子どもを産み、育てていく
- 子育ての第1義的責任は父母である一方、様々な子育てニーズに対応したサービスにより、地域社会全体で子育てが行われる

ありうる未来を実現するために



- 待機児童の解消、地域での子どもの居場所の充実など子ども・若者を支える地域づくりを進める
- 子どもを犯罪や貧困、虐待から守り、安全に暮らせる環境を整える
- 妊娠から出産、子育てまで安心して健康的な生活が送れるよう支援する
- 学校教育をさらに充実させる
- 市内外の出身を問わず若者に市内に定着してもらえるようにする
- 市内出身で市外に転出した若者に戻ってきてもらえるようにする etc

歴史文化資源と共生し、 にぎわいと交流があふれるまち①

～国スポ・障スポレガシー^(注)を活用したまちづくり～

(仮称)新市民体育センター整備(市)
(仮称)彦根総合運動公園整備(県)

選手の育成・強化

大会へ向けた市民意識の向上

2025年 国民スポーツ大会・全国障害者スポーツ大会

- 交流人口(選手・関係者・観客)の増加
- 市民のスポーツに対する関心の高まり
- ボランティア活動等を通じた市民の「おもてなし」精神の醸成
- スポーツツーリズムの推進

スポーツ(観戦・参加)の活性化による彦根市の活力の向上・まちづくり

(注)IOCによるとレガシーとは「長期にわたる、特にポジティブな影響」のこと。
近年IOCはオリンピック・ムーブメントの一環としてレガシーを重視している。

歴史文化資源と共生し、 にぎわいと交流があふれるまち②

～世界遺産「彦根城」を活用したまちづくり～

| | 姫路城の場合 |
|-------------|-----------|
| 登録前(1992年度) | 884,875 |
| 登録後(1993年度) | 1,019,845 |

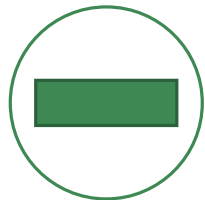
【参考】彦根城入込客数
約72.3万人(2018年度)

約13.5万人(15%)増

- 世界遺産登録を機に、観光客が増加しても、その際の満足度が低ければ、かえって彦根市のイメージが悪化することも考えられる(リピーター・関係人口を獲得できない)
- 彦根城を取り巻く周辺環境(景観等)の向上には、市民等の理解と協力が重要



- 観光消費増 → 経済波及効果増大
 - ▶ 観光客のまちなかへの回遊増



- 交通渋滞の増加
- 駐車場の不足
- 観光客増に伴い文化財の損耗が想定以上に

市民の満足度も低下

世界遺産登録を見据えたまちづくり(ソフトを含む)の必要性
～世界遺産登録を一過性のブームにしないために～

最悪の場合、市民と観光客との対立を招く可能性

豊かな自然に包まれ、 快適で安全・安心なまち

高齢者の増加
(免許返納者の増加)

彦根城の世界遺産登録を
契機とした観光客の増加

MaaS^(注)や
自動運転の発達

環境にやさしい
新たな交通手段の提案

ありうる未来

- 便利な交通手段があり、自家用車がなくとも快適な日常生活を営むことができる
- 観光客が利用しやすい交通手段があり、交通渋滞が抑制されている

ありうる未来を実現するために

- 効率的で利用しやすい公共交通網の充実
- 彦根城周辺への自家用車の流入抑制
- 駅周辺の都市機能が充実したコンパクトなまちづくり
- 歩行者や自転車利用者が安心して快適に移動できるまちづくり etc

(注) MaaSとは・・・ICT を活用して自家用車以外のすべての交通手段を 1 つのサービスとして利用できる環境のこと。例えば、スマートフォンのアプリで経路検索をすると同時に、電車やタクシー、レンタサイクルなど複数の交通手段を予約できるようにすること。

政策推進のための取組

～デジタル化とデータを活用したまちづくり～

2017年4月 滋賀大学データサイエンス学部開設

利用可能なデータ
がまだまだ少ない

デジタル化により
データの集計・
利用が容易に

2020年 コロナ禍 ⇒ デジタル化推進の必要性が明確に

国主導(共通システム)
で進む可能性大

1. 行政のデジタル化
 - 行政手続きのオンライン化(来庁せずとも手続き可能に)
 - ノンストップ化(申請主義ではなく対象者に自動的に届く仕組み作り)
2. データを活用したまちづくり
 - 行政データのオープンデータ化
 - データに基づいた政策立案(EBPM)
 - データサイエンス分野のスタートアップ支援